

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成30年 5月

## 1 東京都中央卸売市場(平成30年1~4月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約59.0万 t で、前年比約7%減、金額は約1,892億円で前年比1%増となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約7.0万 t で、前年比約1%減、金額は約190億円で前年比6%増となった。  
 (金額の内訳は、野菜164億円、果実26億円。前年同期比で野菜7%増、果実2%増、平年同期比で野菜14%増、果実9%増)  
 金額が【増加】した品目(前年対比)：こまつな(147%)、みず菜(128%)、いちご類(105%)  
 金額が【減少】した品目(前年対比)：れんこん(89%)、ピーマン(90%)、メロン類(82%)
- ③ 茨城県の1~4月計の青果物入荷量は平年並み(シェア11.9%)、取扱金額は同約114%(シェア10.0%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1~4月計)		
	1~4月計	年間計	年間比	1~4月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木
数量	H30	590,171		70,402	←シェア(11.9%)		12.5%	8.8%	3.8%
	H29	632,669	1,993,784	71,285	236,401	30.2	12.8%	8.5%	3.6%
	(前年比)	93		99	シェア(11.3%)				
	平年値※	636,941	2,003,425	70,303	228,862	30.7			
	(平年比)	93		100	シェア(11.0%)				
金額	H30	189,174		18,967	←シェア(10.0%)		9.1%	3.1%	8.0%
	H29	187,780	570,001	17,885	60,163	29.7	8.7%	4.1%	7.9%
	(前年比)	101		106	シェア(9.5%)				
	平年値※	179,777	553,870	16,703	56,082	29.8			
	(平年比)	105		114	シェア(9.3%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成25~29年の5カ年平均。  
 ※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
 平成29年実績(1~12月計)  
 茨城県：金額シェア(10.6%)、数量シェア(11.9%)  
 千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(10.9%)  
 北海道：金額シェア(5.9%)、数量シェア(11.6%)

## 2 東京都中央卸売市場(平成30年4月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

( )内は前年対比

野菜類の入荷量は約2万トン(102%)、単価は181円(76%)、金額は約35.6億円(77%)  
 果実類の入荷量は約9百トン(88%)、単価は745円(107%)、金額は約6.9億円(95%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成25~29年同月の5カ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)			金額(千円)				
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	レタス類	4,596	104%	96%	97%	151	78%	71%	69%	694,485	81%	68%
	ピーマン	1,271	96%	104%	107%	430	93%	89%	86%	545,827	90%	93%
	はくさい	6,496	110%	121%	107%	45	32%	48%	50%	295,198	36%	58%
	れんこん	424	147%	94%	96%	535	59%	88%	87%	226,977	87%	83%
	<b>野菜類計</b>	<b>19,696</b>	<b>102%</b>	<b>103%</b>	<b>94%</b>	<b>181</b>	<b>76%</b>	<b>78%</b>	<b>91%</b>	<b>3,555,231</b>	<b>77%</b>	<b>80%</b>
果実	いちご類	389	96%	86%	96%	1,025	103%	120%	114%	398,952	99%	103%
	<b>果実類計</b>	<b>929</b>	<b>88%</b>	<b>94%</b>	<b>85%</b>	<b>745</b>	<b>107%</b>	<b>110%</b>	<b>116%</b>	<b>691,551</b>	<b>95%</b>	<b>106%</b>

(野菜)

- レタス類 本県産の数量は平年比96%、市場平均でも97%と、平年より少なかったものの、3月の本県産や西南暖地からの出荷がまとまったことによる単価安の影響や消費低迷の影響が続き、単価は前年比78%、市場平均で69%と振るわなかった。販売金額も、前年比81%、平年比で68%と大幅に落ち込んだ。
- ピーマン 3月の気温高と日照量の多さなどから生育が進み、出荷量が増えた。宮崎県などの他産地でも出荷が集中し、市場計で平年比107%の数量となった。数量の増の影響と野菜全体の相場安の影響から、単価は前年比93%、平年比86%となり、販売金額も前年比90%にとどまった。
- はくさい 昨年の春ははくさいの相場高の影響で作付が増えたこと、3月からの急激な気温上昇による生育前進が進み、出荷量は前年比110%、市場平均も107%と数量が増えた。さらに、抽苔による品質低下や消費停滞の影響を受け、平均単価が高値であった前年比32%、平年比で48%と大幅に落ち込んだ。販売金額も、前年比36%、平年比で58%となった。

(果実類)

- いちご類 全国的に上旬は出荷量が多かったものの、中旬~下旬にかけては出荷量が前年を下回り、4月計では前年比96%、平年比86%、市場平均で96%と減少となった。単価は、果実類全体の高値基調といちごの数量減から、前年比103%、平年比120%、市場平均も114%と高い結果となった。販売金額は、数量減が響き前年比99%、平年比103%となった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出